

YOSHINAKA PRESS Vol. 9

発行：おざわ良央事務所 HP ozawayoshinaka.com
〒250-0042 神奈川県小田原市荻窪166 TEL 0465-35-0001 FAX 0465-35-4666



よしなか
神奈川県議会議員 おざわ良央

地域への想いを込めて

平成29年2月
定例県議会一般質問報告

県議会平成29年第1回定例会にて、去る2月県議として2回目の一般質問をいたしました。小田原市や県西地域への熱い想いを込めて黒岩知事や各局長へ質問した概要をご報告致します。

質問 1 次期東京五輪を県の新たな飛躍への絶好の機会とすべき

前回五輪は世の中を大きく変革する象徴的な大会となった。来る大会も県民等しく納得するレガシーとなるよう県あげて取り組んで欲しい。

知事 答弁 1 次期五輪は、国際観光地、先進産業の集積地としての神奈川を世界に発信する絶好の機会。そこで“神奈川ビジョン2020”を策定、“神奈川モデル”の取り組みを加速化、本県の持つポテンシャルを更に高めます。

質問 2 県西地域の活性化

「県西地域活性化プロジェクト」の核となる“（仮）未病いやしの里センター”第一期がオープン。このセンターの取り組み等を通じ、県西地域全体の活性化をどのように図って行くのか。

知事 答弁 2 センターを核に自然や食、運動、いやしの拠点等地域資源をネットワーク化し、回遊性を高め、県西地域の活性化を図ります。

質問 3 鳥獣被害対策について

サル、イノシシ、シカ等の農作物や生活被害が深刻化している。県は平塚に「鳥獣被害対策支援センター」を新設するが、地域への支援を問う。

知事 答弁 3 「支援センター」には野生鳥獣、農林業などの専門職員を集中配置、地域の実情に応じた専門的、広域的な技術支援や、リーダーの育成等を行い、サルやイノシシ、シカ等の鳥獣被害を軽減したい。

おざわ要望▶ 地元農家は、20年来の鳥獣被害の深刻な状況が変わらない！と悲痛。県当局は被害を根絶する覚悟で臨むよう強く要望する。

質問 4 介護人材の確保及び定着について

福祉ニーズの拡大等に伴い、介護人材の確保は喫緊の課題。介護離職者や子育て中の女性の活用等必要。県の対応を問う。

知事 答弁 4 全国に先駆け、人材バンク事業を開始、再就職準備金活用、復職希望者研修や、出産・育児休業復職者の短時間勤務の支援等、介護人材確保に全力を尽くします。

質問 5 山王川河川整備の促進

小田原市内住宅密集地を流れる山王川は、集中豪雨等による度々の避難勧告や小田急線橋梁付近の滞流による運行停止の危機等もあり、早急な治水安全度の向上が求められるが。

県土整備局長 答弁 5 護岸整備が必要な延長4kmの約半分は完了。小田急線橋梁の架け替えを早期に着手したい。また護岸補修や推積土砂除去等、維持管理に努めます。



質問 6 個人商店の振興や商店街の活性化について

個人商店、ひいては商店街が衰退し、“買い物難民”現象が目立つ。地域住民の為に、支援を強化すべき。 ※産業労働局長の答弁は省略

質問 7 社会福祉法人制度改革への対応

本年4月、社会福祉法が改正され、小規模法人には負担も大きい。県の対応と改革の県民メリットは。 ※保健福祉局長の答弁は省略

待望の新企業進出

有力企業の市外転出が目立つが、県の企業誘致推進策“セレクト神奈川100”の効果もあり、前川の空地に食材製造工場と研究所の進出が決定。50億円の投資と230人の新規雇用が予定される。次の新規企業の進出が望まれる。



広大な前川地区空地に企業進出



進む(都)城山多古線
穴部地区の用地買収



国府津地区を守る
長大な越波対策事業



小八幡海岸の
養浜工事



広域農道
小田原～湯河原線
根府川地区工事



黒岩知事の
企業視察に同行

神奈川県議会議員
よしなか
おざわ良央

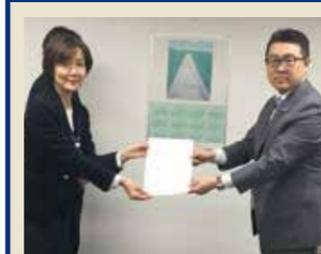
県政トビックス!

次期東京五輪対策等で、
県西地区のハード事業に影響がでていますが、
中でも着々と進む諸事業を紹介する。

地域の
交通問題
改善!

国道1号の羽根尾地区橋インター入口や、穴部・国府津線と巡礼街道との交差点付近等の激しい交通渋滞、そして国道255号豊川支所交差点入口の車両の横断困難等、地域の長年の懸案が、おざわ県議の粘り強い活動により信号調整等され著しく改善した。地域の皆さんとおざわ県議の地道な関係プレーの成果である。

神奈川県卸売市場審議会 おざわ会長 諮問案に答申



去る2月、卸売市場整備第10次(H28～32年度)計画の食品衛生管理等の高度化に関する県諮問案を、審議会で慎重審議した結果を知事代理の金子環境農政局長に答申した。

おざわ良央 県議会新所属決まる

- 産業労働常任委員会委員
- 東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ特別委員会委員
(平成29年5月より)

環境農政常任委員会

平成29年県議会第一回定例会の環境農政常任委員会において、去る3月、おざわ県議は所管の環境問題や農、林、水産業等について、広範な観点から質問をしました。以下その概要をご紹介します。(順不同)

家庭部門における省エネルギー対策について

Q. おざわ 「県地球温暖化対策改定計画」家庭部門の省エネルギー対策の今までとこれからの取組は。

A. 環境計画課長 家庭部門では、県民の皆さん一人ひとりに行動を変えていただくことが大切。地域や学生等を対象に環境教育を通じた省エネルギーの取組み等を推進してきました。

Q. おざわ 今年度から「省エネ家電買い替えキャンペーン」で、冷蔵庫とエアコンを対象にしていますが、

A. 環境計画課長 24時間稼働の冷蔵庫やエアコンは特に省エネ効果が大きく、家計にも優しいことから対象としました。来年度からは住宅の省エネリフォームの促進に取組みます。

資源管理型栽培漁業の取組について

Q. おざわ 魚介類の稚魚を放流する栽培漁業は、水産資源を増やし豊かな海づくりに有効と思うが。

A. 水産課長 稚魚の生産、放流の目標を定め、計画的に実施。主たる魚種はマダイ、アワビ、ヒラメ等で、今後はカサゴ、メバル、トラフグ等を取組み、沿岸漁業の振興に努力します。

県森林整備加速化・林業事業基金条例の廃止について

Q. おざわ 木材の供給体制の整備や、利用促進を図り、林業、木材産業の再生を目的とした基金条例を、今回廃止するが、林業者の不安に今後どう対応するのか。

A. 森林再生課長 基金により県産木材の生産や普及目標がほぼ達成見込みとなっています。今後とも県民が利用する公共施設等の木造化を進めて、県産木材に対する県民の認知度を高め、林業者の期待に応えてまいります。

平成28年度県公共事業評価で小田原漁港の評価は

Q. おざわ 県財政が厳しい中で、公共事業に対しての県民の目は厳しい。その評価の中で小田原漁港が“継続”とされているが、その内容等をお尋ねしたい。

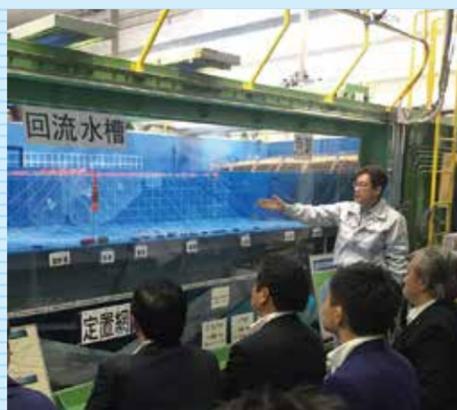
A. 水産振興担当課長 整備によって、①県西地域の安定した水産物生産や流通拠点 ②耐震強化等による防災拠点 ③都市住民との交流の促進等の機能強化、更に自然環境の保全と創造や、観光客増による県西地域の活性化が図られる等により、評価委員会から“継続”との評価を得て、県方針が決定されたものです。



富山県との広域連携による定置網共同研究について

Q. おざわ なぜ富山県との定置網の共同研究になったのか。

A. 水産課長 本県の相模湾試験場では、海の流れを再現し、定置網の模型で実験できる回流水槽があり、台風等の自然災害に強い定置網の研究が可能。また富山県では、定置網の本体の“垣網”の波浪対策の現場技術が進んでおり、両県の利点を活用し合い、漁業経営の安定につなげることができると考えています。



環境農政常任委員会では、この他に下記項目についても質問をいたしました(省略)。

- 〔神奈川県事務事業 温室効果ガス排出抑制計画の改定について〕
- 〔キャンプ禁止区域に関する条例を廃止する条例について〕

- 〔トラフグの栽培漁業での取組み〕
- 〔漁業制度と漁業取締について〕
- 〔県産魚介類販売促進事業について〕

経済活性化・産業振興特別委員会

平成29年第一回県議会定例会で、おざわ県議は、経済活性化特別委員会委員として、県西地域の活性化や観光振興について県当局の考えを質し、一層の努力を求めました。

外国人観光客の誘致促進について

Q. おざわ 2020年4000万人の外国人観光客誘致を目標に掲げ、国も県も頑張っているが、箱根や鎌倉、横浜等の既存の観光地の受け入れ態勢が追いついて行くのか不安を覚えます。新観光地発掘も大切とは思いますが、既存観光地も交通渋滞の慢性化や、おもてなしが不十分だと逆効果になりかねない。どう取組むのか。

A. 国際観光課長 現在、県全体として受入環境をどう整備して行くか、課題を整理しているところです。今後方針を固めて、観光客増への対処も考えて行きます。また山梨、静岡、神奈川の三県一体となった整備やプロモーションもしていきます。

未病いやしの里センター(仮称)について

Q. おざわ 県西地域活性化プロジェクトの核となる施設、「未病いやしの里センター」計画が具体的に動き出すが、プロジェクトの中での位置づけ等を聞きたい。

A. 地域政策課長 県西地域を「未病の戦略的エリア」としてアピールする拠点として、未病に関する情報発信、未病の「見える化」「未病を改善する」提案等を行う施設との位置づけ。このセンターの中、或いは県西地域の温泉等地域資源を活用して未病改善に繋げていきたい。



センターが整備される旧第一生命ビル(大井町)

※センターの名称は6月より「未病パレー「BIOTOPIA」」

情報発信サイト等について

Q. おざわ 県西地域活性化プロジェクトについてのホームページが開設されていますが、健康・未病に若い人も含めて関心をもってもらうことと、更に交流人口や移住人口増にまで繋がるような情報発信をしていただきたい。

※地域政策課長の答弁は省略

上記の他、**県西未病観光コンシェルジュ**についても質問をいたしました(省略)。